

緑肉メロン「イバラキング」 (品種登録出願中)の育成

メロンの半促成栽培では、生育期・果実肥大期が低温期にあたるため、果実の小玉化や糖度不足など品質が低下しやすくなります。そこで低温期の栽培でも果実の肥大性や食味、日持ち性の優れる「ひたち交3号」を育成しました。果実重は「アンデス5号」より重く、「オトメ」とほぼ同等です。糖度は「アンデス5号」とほぼ同等で食味が優れ、日持ち性は「オトメ」より優れます。

● 果実の特徴 ●

果実肥大性は「アンデス5号」より優れ「オトメ」と同程度です。果皮は緑色が比較的濃いですが、ネット発生は「アンデス5号」と同程度に密で盛り上がります。糖度は安定して高く、さわやかな甘さと滑らかな肉質で、食味が優れます。また「オトメ」と比べて日持ち性に優れ、うるみの発生が少ないです。



写真1 「イバラキング」の果実



写真2 「イバラキング」の着果の様子

● 生育特性 ●

雌花着生率・着果率は「アンデス5号」、「オトメ」と同等に高いです。開花日は「オトメ」より遅いですが、「アンデス5号」よりも早くなります。受粉から収穫までの日数は「アンデス5号」と同程度かやや短いです。また、収穫終了時の葉の大きさ、遊びづるの長さは「アンデス5号」よりやや小さくなります。

● 栽培上の留意点 ●

ネット発生が不安定な場合があるので、ネット発生期の低温や土壤水分の急激な変化を避けることが必要です。

つる割病レース0、2に対しては抵抗性がありますが、レース1、1,2w、1,2yには抵抗性(耐病性)がありませんので、発病ほ場では土壤消毒を実施し、接ぎ木栽培を行う必要があります。



写真3 「イバラキング」生育状況